

語ろう！with/after コロナにおける老年看護実践・教育の挑戦
第3回 語ろう！With/After コロナの老年看護学教育と実践の連携に向けた取り組み
～臨床実習実施に向けた受け入れ施設との連携と ICT 機器の活用～

日時：2022年2月10日（木）18：00～20：00、オンライン開催

参加人数：36人（申し込み：43名、欠席：7名）

アンケート方法：Microsoft Forms を使用した Web アンケート

アンケート回答数：32名（2022年2月18日時点） アンケート回答率：88.8%

回答者の勤務先：大学や専門学校等の教育機関25名、病院4名、介護施設1名、その他2名

1. アンケート結果

- 1) 研修を知ったきっかけ（複数回答可）：「メールマガジン」48%、「日本老年看護学会のホームページ」28%、「代議員・会員宛のメール」13%、「役員・代議員からの紹介」8%、「会員からの紹介」5%であった。
- 2) 研修は期待通りだったか：「期待以上に良かった」47%、「期待通りだった」53%であった。期待以上及び期待通りだった理由は、「コロナ禍での実習の工夫など、期待していた情報等を得ることができた」「学部教育についての大学の取り組みと病院・福祉施設の取り組みを聞くことができた」「自施設では考えていなかった考え方や方法を知ることができた」「ディスカッションで様々な先生方の工夫がわかってとても参考になった」「著名な方々や一線の人達にふれることができたから」「評価の難しさ、公平性など、同じところで悩んでいるんだな…といった想いも持つことができた」「今後の実習への不安が軽減できた」「実習受け入れ病院や施設の方の教育への熱心な思いや姿勢を知ることができた」であった。「もう少し ICT を実施しているところの話を聞きたかった」「グループで話す時間がもう少しあるとよかった」という意見もあった。
- 3) 今後も会員同士が語り合う企画を希望するか：「希望する」94%、「希望しない」6%であった。希望する研修内容は、「シミュレーション教育の工夫」「学内実習の取り組みと臨地側が学生に求めるもの」「教員と臨床が参加した意見交換」「基礎教育課程における老年看護の教育方法」「実習施設との連携」「認知症の教育」「映像教材（VR含む）の運用と工夫」「高齢者の尊厳に関する教育」「地域包括ケアと老年看護」「情報共有する場やジレンマの共有の場」「コロナ禍における学内演習/臨地実習と評価」「学生の看護実践力を向上させるには」「急性期における老年看護の実際」などが挙げられた。
- 4) 本企画に参加した感想：「意見交換、情報がプールできるところがあるとよい」「コロナ禍で苦労しながらも前に進むようとしている姿があり、感動した」「教員がどういう学生を育てたいか、何を学ばせたいかを明確にすることの重要性を再認識できた」「3回すべてに参加して各回の色があり面白かった」「大学教員だけではなく臨床の方も参加している点に教育と臨床の融合で画期的でワクワクした会だった」「『老年看護観』につながる教材を考えていきたい」「学びあいを大切に学生の持てる力を発揮することができるような教育に関わっていきたい」「学生の実習を受け入れることが負担だけでなく看護師のメリットにも繋がるというお話を伺い少しジレンマが解消された気がする」であった。
- 5) その他の意見：「充実した企画内容であった」「勉強になった」「グループワークがよかった」などであった。

2. 総括

アンケートの結果、企画内容について肯定的な意見が多く参加満足度が高かった。学術集会等の学会活動がオンラインとなり、コロナ禍における日頃の悩みや取り組みについて相談・共有する場が少なかったことから、今回の企画は、自分達が実践していることへの確証と、新たな情報を得ることや考え方に気づく機会となっていたことが伺えた。参加者からは今後の語り合い企画への要望が高く、コロナ禍における演習・実習の工夫と評価、コロナ禍により広がったシミュレーション教育や映像教材の運用等の新たな教授方法に関するニーズから、教育と臨床の連携、認知症や高齢者の尊厳等の老年看護基礎教育に関するニーズがあげられ、今後検討していく必要がある。